

令和4年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

| | | |
|--------|--|---|
| | 分掌名（特別活動部） | 記載者 加藤 顕一 |
| 重点目標 | 1 生徒が主体的に活動を行う生徒会活動 2 部活動の振興 | |
| 具体的な計画 | 1 生徒が主体的に活動を行う生徒会活動 （1）生徒同士が協議をするきっかけをつくり、生徒による計画・運営が充実することにより、生徒会行事の質的充実を図る。 （2）年間を見通した活動内容の充実を検討し、委員会活動の質的充実を図る。 2 部活動の振興 （1）全国大会出場毎年7以上、全国大会入賞5年間で2以上を目標とし、各部の活動の充実と実績の向上を図る。 （2）各部員の健康管理及び学力保障に向けた環境整備を図る。 （3）在籍生徒数と部活動設置数の長期的見通しについて検討する。 （4）遠征費の支出のあり方について検討する。 | |
| 具体的な評価 | 1 北高祭は3年ぶりに2日開催で実施となり一般公開も行うことができた。スポーツ大会は応援生徒の入場制限をしたうえでの開催となったが、ライブ配信で試合観戦できるようにするなどの工夫が見られた。その他の行事も概ね例年通り実施することができて、コロナ3年目できるよう活気が戻りつつある。 2 各種大会は例年通り行われたが、未だに観客入場制限等の予防措置は継続している。運動部は、IHへ7つの部活動が出場して水泳部が入賞を果たしたほか、国体へ5つの部活動が出場して剣道部と水泳部が入賞を果たした。文化部は、5つの部活動が全国大会へ出場した。 | 自己評価 |
| 取組状況 | 1 北の文化教室ではコロナの影響で2年延期していたオーケストラ公演を秋田芸術劇場ミルハスで開催することができた。現在、生徒会執行部がつどいや新入生歓迎会等の準備にすでに取り掛かっている。 2 部活動では、大きな事故もなく、部員一人一人が学業との両立に努力しながらよく取り組んだ。運動部ではソフトボール部、剣道部、水泳部、フェンシングが東北大会出場、新体操部、弓道部が全国大会に出場した。文化部では囲碁部が東北大会へ、文芸部が全国大会へ出場したほか、文芸部、放送委員会、箏部が次年度の全国高総文祭への出場権を獲得した。 | B |
| 今年度の課題 | ・コロナのため現3年はようやく北高祭を経験することができたが、ここ数年ノウハウが蓄積されていないことは今後の生徒会活動に大きな影響を与えると予測される。 ・「部活動数の精選」と「部活動の地域移行」をセットで対応を議論しなければならない。 | 今後の改善策 ・生徒会執行部と各種委員会の次年度の引継ぎを確実にしなければならない。 ・スポーツ庁や文化庁のガイドライン及び秋田県の施策に沿いつつ、本校の事情も十分考慮しながら対応を検討していく必要がある。 |